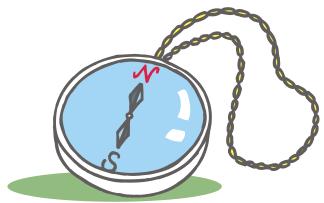


羅針盤

第 13 号

令和7年7月14日(月)



◆ 「素直な心」を大切に

「素直な心」を大切にすること。この「素直な心」を持っているということが、人が人として大きく成長していくためにはとても大事なことではないかと思います。「素直な心」があればこそ、人間は「人としての大きな成長」とともに、進歩し続けていくことができるはずです。この「素直な心」の大切さを説かれた偉大な人、それは大企業の中でも有名なパナソニックグループ（旧松下電器）の創業者である松下幸之助（まつしたこうのすけ）さんです。松下幸之助は、わずか9歳のときに、単身で大阪に出てきて、火鉢店や自転車店で奉公をした後、大阪電灯株式会社に就職し、その後、23歳の若さで松下電器を創業されました。その原動力となったもの、それこそがまさに「素直な心」です。彼は、「自然の理法（雨が降ったら傘をさすように、当然のことを当然に行うこと）は、いっさいのものを生成発展させる力を持っている。」と考えました。つまり、「素直な心」になって、自然の理法に従っていれば、必ずうまくいく。世の中は成功するようになっている。」と考えたわけです。「自然の理法」に従うためには「素直な心」が必要であるということは何を意味しているのでしょうか。「素直な心」とは、自分自身のいたらなさを認め、そこから努力を始めるという謙虚な姿勢のことです。素直でない心の時、人は必ず行き詰ります。能力のある人ほど、人の意見を聞かないことや、たとえ聞いていたとしても反発心の方が勝ってしまうことが多くの場面で見受けられます。できないことを求めてばかりで、できることをやらないのでは、結局はその人自身の価値観を周りの人たちに強要するだけで、周りの人たちにとっての価値のある人には決してなりえないということを理解すべきです。「素直な心」を持っている方が、自身の成長へと繋がっていくということを生徒の皆さんにはしっかりと理解してもらいたいと考えます。成長することができる人ほど、「素直な心」で人の意見をよく聞き、常に反省することを忘れず、自分自身を見つめなおすことができる人です。自分にとっては耳の痛い言葉にこそ、自分自身を成長させてくれるものだと受け止めることのできる謙虚な姿勢が必要であるはずです。「素直な心」を持ち、「何事も人のせいにせず、言い訳もせず、自分をしっかりと見つめなおして、自分の価値を自分では決めずに、世の中や周りの人たちとの関わりの中で客観的な視点で自分の価値を見つけ出すこと」が、とても大事なことであるはずです。人としての「素直な心」が、自分自身といったものの土台づくりに位置づけられているか、日ごろから意識をしながら活動することが

自身の成長を確かめていくうえでも大事なことははずです。日ごろから、「自主・自立の確立」と「社会貢献できる人としての成長」といったことを、全校集会の場で繰り返しあ話してきたかと思います。生徒の皆さん一人ひとりが、自分らしく成長をし、将来の社会で役立つ人間であることを実感できる人となるためには、この「素直な心」が欠かせないものとなるはずです。何事に対しても謙虚に耳を傾けて、様々なことを受け入れる寛容な心を持ち、広い視野から物事を見わすことのできる、「優しき心」の持ち主であるためにも、この「素直な心」を大切にしてもらいたいと心より願っています。

